自動車安全技術に係る取組推進の枠組みと研究開発等の現状

資 料 2

産 学 行 政

研 究 開 発

1. ドライバーの危険状態を警告する運転支援システム （例示）

○ ドライバーの危険な状態・運転の予測と事故回避を支援するシステムの開発

○ 大量の運転データに基づく危険の検知及び教示システムの開発

○ 無線カメラ画像からスマートフォンが危険を検知し、警告信号をハンドルに送信するシステムの開発

○ ドライバーの運転中の居眠り（閉眼）状態を検知し、警報するシステムの開発

2. 位置情報を活用した運転支援システム （例示）

○ ドライバーの見落とし防止：車と歩行者の直接通信を可能とする歩行者端末の開発

○ 走行支援可能な車線情報付き高精度地図及び小型ナビゲーション装置の開発

実 証 実 験

1. プローブ情報の活用 （例示）

○ 自動車メーカーが保有するプローブ情報の交通事故の防止・事故減少に資する交通安全対策への活用

プローブ情報の活用策について検討するワーキンググループを設置。

2. ブレーキ装置の高機能化 （例示）

○ 走行安全技術の高度化に伴うブレーキ電子制御装置の高機能化

1. 県内企業の研究開発・実証実験の支援

減税基金に基づく「新あいち創造研究開発補助金」等の活用

2. 中堅・中小企業に対する技術支援・指導・相談

あいち産業科学技術総合センターにおける支援体制の整備、自動車安全技術に係る産学連携、産産連携を促す講演会の開催

3. マッチング機会の提供

クルマ未来博(10月)やメッセなごや(11月)等の機会を活用し、自動車安全技術に係る企業間のマッチング機会を提供

4. 普及・啓発

一般県民や自動車関連企業の関係者が来場する、クルマ未来博やメッセなごやにおいて、自動車安全技術をPRするための講演会や体験イベントを開催

行 政 ・ 県